

●昭島の歴史・八清ドキュメント(広報部会レポート)



▲現在の玉川会館とロータリー噴水

が移転され、それに伴いそこで働く多くの人(家族)が、やって来るようになりました。

そんな時代を背景に、一面桑畑の片田舎に、たくさんの人が住める住宅建設と街づくりが急務となりました。

そして、この建設計画は大規模なことから、専門業者に全て委ねられることになりました。土地の買収から、街づくり整備、住宅建設、その後の賃貸住宅管理まで全てを受けおうことになった人物は、実業家の八日市屋清太郎氏でした。

八日市屋氏は名古屋の建設業者で、名古屋から移転する、郷土の住民のために尽力を尽くしてほしいと、陸軍航空工省から熱く説得されたと伝えられています。

東中神の南口、江戸街道の歩き、鍵型の交差点があり、さらに南方面道路は八清通りになる。この周辺地域は隠れた日本の昭和史が存在している場所なのです。昭和16年12月8日のこと、日本軍の真珠湾攻撃により太平洋戦争が勃発しました。

昭和19年には敗色が濃厚となった日本国内で、アメリカ軍による空爆が頻繁におこなわれるようになり、昭和20年、広島、長崎に相次いで原爆が投下されました。その年に8月15日、日本は無条件降伏し太平洋戦争は終結しました。

時代は昭和20年から7年さかのぼり、昭和13年、昭島市(當時昭和村)に、大規模な軍需工場が建設されました。

昭和村には名古屋から名古屋工廠という飛行機をつくる軍需工場



▲昭和36年頃の昭島東映画館

その請負人の名前に因んで八清住宅と名付けられました。

戦後は青梅線を利用する人が増えるにつれて、八清通り周辺全体には市場ができ、それを中心に商店が並び、福生・砂川・近隣の人々の集まる繁華街として、更に賑わうようになりました。

昭和23年八日市屋は住民の住宅管理を経営していましたが、廃業して去ることになりました。八清住宅は当時最先端のインフラと銭湯・映画館等の娯楽施設も完備された、誰もが住みやすい理想的な街だったのです。そして八日市屋氏の功績は多大なものだったことが伺えます。



▲昭和30年頃の八清通り商店街

その後、昭和町から北鎌倉に移住して、晩年公の場には姿を見せることもなく、ひっそり暮らしていたと伝えられています。

現在でも八清の由来という名前が刻まれた石碑が存在して、八清通りの狭い路地には繁栄していた当時の商店市場のあと、ロータリーを中心としたヨーロッパを思わせるの放射線状の街並みが面影を残しています。